

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 9 月 29 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3474800376		
法人名	優輝福社会		
事業所名	グループホームみら屋		
所在地	広島県三次市三良坂町三良坂1789-2 (電話) (0824) 44-3008		
自己評価作成日	令和4年8月31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3474800376-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年9月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

『ご利用者様、スタッフが一緒に買い物や洗濯、食事作りなど自宅でされていた時と同じような雰囲気での共同生活を行う場所』がグループホームではありますが、コロナ禍と言う事もあり、思うようにできていないのが現状です。しかし、その中でも出来る事は何かと考えるながら取り組んできました。買い物はできませんが、ちょっとしたドライブ、庭でのティータイムをしています。洗濯物を一緒に干し畳むときは、歌好きなご利用者ばかりなので、歌を唄いながら家事をしています。食事作りは出来ませんが、梅干し・梅シロップと一緒に昔話を聞かせて頂きながら作りました。新型コロナウイルスの感染を最大限に防ぎながら、不安やストレスのない生活を送って頂けるよう努めています。マスク生活が長くなり、ご利用者様とスタッフのコミュニケーションが取りにくいときもありますが、少しでも認知症の進行などの症状悪化を防ぐようスタッフ一丸となり「一緒に大笑い、楽しい一日ありがとう」と心の底から言える「我が家」を目指しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

最近の特徴的な取り組みは第一に「馴染みの人や場との関係継続の支援」に深化がある。気軽に訪問できる事業所作りに取り組みコロナ禍による面会制限がある中、居室での窓越し面会も始まり4割強の利用者との面会が実現し利用者・家族の気持ちに寄り添った支援をしている。第二に「本人と共に過ごし支えあう関係」に深化がある。閉じこもりがちな生活の中、洗濯物畳み・梅干し作り等で「暮らしの知恵」を職員と共有し、歌を友としてコミュニケーションが繋がり「一緒に大笑い、楽しい一日ありがとう」の実現に繋がっている。第三に「事業所と地域とのつきあい」に深化がある。地域力を強化すべく地域清掃活動・地域密着型サービス連絡会議・地域ケア会議等への参加を通して地域連携に努めている。

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	理念をもとに、全職員が利用者と共に笑顔での生活を実践している。	開設時に策定した理念を実践上の立ち返るべき原点としている。それをもとに各職員は個人目標・事業所目標を立案・掲示し、それを集約して当該年度の事業所目標とし年度末に達成度を検証している。今年度は「報連相・チームワーク・優しい声掛けで笑顔の職場」作りに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で、利用者が地域行事や学校行事への参加はできていないが、職員が地域清掃活動が続けるなど、地域の一員であることを意識した行動をしている。	現在はコロナ禍により散歩・季節のドライブ・毎月の地域清掃活動以外は自粛中だが、本来はサロン・カフェや地域行事等を通して地域住民と交流をしていた。又、事業所の夏の夕涼み会への家族招待等、相互交流や地域の保育園・小学校や中学生の職場体験等、世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎月一回の地域清掃活動を継続し実施している。地域ケア会議へも参加し地域の事例について意見交換している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	小規模多機能型居宅介護三良坂と合同で、2カ月に一回の運営推進会議には、ご家族代表、民生委員さん、支所の保健師さん、包括支援センター、高齢者福祉課、駐在さん等関係各所よりご参加頂き意見交換の場としている。コロナ感染対策を徹底し開催している。	会議は隣接の小規模多機能型居宅介護と合同で定期的に開催しているが、コロナ禍のため書面開催もある。家族代表・民生委員・地域包括支援センター・担当課・保健師・交番の参加がある。家族と情報共有を図るべく議事録を送付している。助言により地域との減災対策強化に努めている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の開催や、地域密着連絡会議、地域ケア会議への参加を通し連携を取っている。支所保健師へは、随時相談し助言をいただいている。	地域包括支援センター・高齢者福祉課・支所保健師は運営推進会議に参加しており、情報を共有している。担当課とは日頃から相談や報告を通し、又地域密着型サービス連絡会議・地域ケア会議への参加や行政主催の研修会へのオンライン参加等を通して協力関係の構築を図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現任者研修において「身体拘束ゼロへの取り組み」等の研修を年2回実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的な身体拘束適正化委員会や研修会を通し職員は拘束をしない必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。気づきはタブレット端末の連絡掲示板で共有している。夜間赤外線離床センサーを設置している。日中は玄関を施錠せず見守り対応である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	現任者研修において「高齢者の虐待について」の研修を実施している。家族による虐待ケースについて、地域包括支援センターを中心に保健師・他のサービス提供事業所と連携し再発防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度を利用されている方はおられないが、その制度や必要性について、研修に参加し学ぶ機会を持っている。また、研修内容を事業所内で伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時 「契約書」「重要事項説明書」について理解できないことのないように十分説明し、同意を得てから契約していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関にご意見箱を設置している。平素よりご家族には状況報告しており、その都度ご意見もいただいている。ご要望に応じた対応を心掛けている。また、運営推進会議でもあらゆるご意見を頂き運営に反映できるよう努力している。	家族の意見は事業所での面会・運営推進会議・電話連絡・意見箱を介して把握し、それを職員はタブレット端末等で共有して迅速な対応に努めている。コロナ禍での利用者の生活が心配な遠方の家族の要望に対し「みらみら通信」に利用者の画像を載せた近況便りを送付した経緯がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回の人事考課も評価の方法を自己評価とし、それに対し他者評価をし面談をしている。毎月の職員会議でもそれぞれの意見を言える様な機会を設けている。日頃から、職員それぞれが、意見を言いやすい環境づくりを心掛けている。また、連絡掲示板の活用ができています。	毎日の申し送り、連絡掲示板、毎月の職員会議、随時又は半年毎の個別面談等を通し管理者は職員の意見を聞く機会を設け介護方法・業務上の提案に対する支援体制を採っている。職員提案により、コロナ禍での窓越し面会に備え、顔がよく見えるようにベッドの配置替えをした例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度の導入により、個々の努力や実績が反映されるように努めている。「働き方改革実践企業認定」「魅力ある介護・福祉の職場宣言広島」プラチナ認定法人として、職員の育児休暇や介護休暇、メモリアル休暇などを推奨し認定される。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修に参加している。内部でも、新人研修や現任者研修を通し、ひとりひとりの技術知識の向上に繋げている。また、勤続年数に合わせ資格取得を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域密着型サービス連絡会へ参加し、市内の地域密着型施設とのネットワークを作り勉強会等を通し、それぞれの質の向上につながっている。地域ケア会議を通し、町内の同業者や他の福祉関係事業所とのネットワークの構築に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	インテークでは時間をかけ、現状や今後の生活に対する意向を聞き取っている。入居後は新しい環境に一日も早く慣れて頂けるように声掛けし、コミュニケーション作りに職員全員で取り組んでいる。また、職員一人一人が傾聴に努め、本人の安心・安全を確保している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族からは、申し込みの段階から、困っておられることを丁寧に聞き取らせてもらっている。入居前、事前面接でも、改めて不安や困っている事、今後の生活に対する意向を聞かせてもらっている。新しい環境に早く慣れ、安心して利用していただけるよう、その都度状況の報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在の状況や本人・家族の思いを聞き状況に応じて必要な支援の調整を行っている。入居については、法人内で検討を行い、他のサービスも含め検討し、決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「一緒に大笑い 楽しい一日を有難う」をモットーに、日々の生活を家庭での生活に近いものとし、入居者の生活歴を大切に家族の様に、共に支え合う関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	常に家族との連絡を取り、定期的に状況報告している。そして、本人が安心して生活して頂けるようにご家族と共に協力し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在はコロナ禍で地域の方との関係の継続はできていない。一方的ではあるが、馴染みの場や人の様子を本人へ伝えている。	地域との絆を大切にして地元の美容院・地域サロン等、馴染みの場所で馴染みの声や顔と何気ない日常を楽しめる様に支援している。今はコロナ禍のため窓越し面会や敷地内でのとんど祭り、ドライブでの見慣れた風景、手紙・電話等で利用者・家族の気持ちに寄り添った支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士のコミュニケーションをとりやすいように職員が関わりを持ち、お互いが支えあえる様な関係作りの支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了になられた方も行事の案内を送ったり、他機関との連携を図れるように支援している。ご家族は、利用終了後も、連絡をくださったり顔をのぞかせ、その後の経過を報告されている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活歴を尋ね、できる限り今までの暮らし方が継続出来るよう、意向に添える暮らし方ができるように努めている。本人の思いの聞き取りが困難な場合でも、本人本位に家族や職員で検討している。	職員は利用者の気持ちを大事にしつつ、その方の行動を理解する様努め、例えば梅干し作り等、利用者の強みに意識を向けている。又、ミキサー食の利用者の状態を見て刻み食に移行する等、本人本位に対応し、その情報はタブレット端末の連絡掲示板に残し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの生活歴を聞き取り、入居前の生活状況や、どのようなことにこだわってこられたか等、本人に関する情報の把握に努めている。入居前に他のサービスを利用されておられた場合は、事業所へ情報提供を依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活記録や申し送り等で現状を把握している。一人一人の過ごし方も違い、その人に応じた生活も記録に残し状況把握に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者にはそれぞれ担当職員が付き、介護支援専門員と担当職員が中心になってアセスメントをし、本人・家族とも話し合い、介護支援専門員が具体的な計画を作成している。	利用者毎の担当職員等の情報収集から計画作成担当者が立案しケース会議で検討して家族の同意にて本案としている。担当職員が毎月モニタリングをし、作成担当者が適宜計画を見直している。介護に抵抗がある原因は孤独という仮説を立て職員の関わりを深めたり、朝の会への参加を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	365日24時間の記録をし、職員間で情報の共有に努めている。状態によってはケース会議等をし介護支援専門員が本人の必要な支援に計画変更、職員は共有し個別支援をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々ニーズに対し、形に捉われず、柔軟な支援を事業者や法人内で検討し取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	フォーマル、インフォーマルそれぞれの、地域資源を把握し、その活用が本人の豊かな生活に繋がるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	町内にかかりつけ医があり、週1又は月1往診に来ていただいている。希望や状態に応じて他の医療機関でも診療を受けられるように支援している。入居前の主治医の先生に引き続き診ていただけるよう支援している。	利用前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医としている。異なる協力医から毎週又は月1回、協力歯科医から随時の訪問診療もある。専門医の受診は家族の協力も得ながら行われている。医師同士の連携や看護師の配置もあり、適切な医療を受けられる体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師の配置をし、日常の健康管理を行っている。また、主治医や他の医療機関との連絡を取り、受診や適切な対応が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中 本人やご家族が安心できるように、地域連携室との調整や情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人やご家族に「看取りの指針」を説明し意向を確認後支援している。契約時に終末期の医療について意向をお聞きし、その都度確認しながら、本人や家族の意思に沿えるよう取り組んでいる。	要望により看取りを行う方針である。契約時に「重度化した場合における指針」で了解を得ている。重度化した際には家族・医師等で話し合いを行い指針に基づき適切な支援を行う方針である。過去の看取り例と事後の振り返りやオンライン研修の活用も含め看取り力の強化に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員全員が救急救命の基礎知識は身につけている。訓練については、コロナ禍で中止となっているが、その都度職員会議で周知したり、看護師が指導している。夜間は、待機職員を配置し、急変時等にも対応出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を実施している。夜間想定、水害、地震、火災等あらゆる想定で利用者だけでなく地域消防隊、地域住民、運営推進委員等の参加もしてもらっている。	消防署指導のもと、併設小規模多機能型居宅介護と合同で年2回の避難訓練の他、毎月自主訓練も実施している。県の一斉防災訓練に参加したり、多様な災害を想定し地域消防隊、地域住民等の参加協力のもと、減災対策の強化に努めている。又、備蓄整備についても法人本部から定期点検がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人内の「こうしようルール」を毎日朝礼で読み合わせ、人生の先輩として尊敬しプライドを損なわない様な対応や声掛けを心掛けている。	朝礼で「こうしようルール」を読み合わせ、職員は日頃の言動を振り返っている。尊厳に配慮してケアに関わり、言葉かけも依頼形で選択できるよう留意している。不適切な対応にはその場で指導や気づきを促したり、職員はタブレット端末の連絡掲示板で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	あくまでも職員が選択・決定するのではなく、本人の意思を尊重し、何事も自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	併設の小規模多機能型事業所利用者と毎日足浴やレク・散歩などを日課にしているが、気分の乗らない時やしたくない時は本人の言われるようにお部屋でゆっくりされる。食事無理なく本人の状況に合わせている。それぞれのペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしい身だしなみや、こだわりのあるおしゃれができるよう支援している。近く的美容院に協力してもらい、散髪してもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	みらみら農園で皆さんが植えた野菜を収穫し食材としている。梅干し作りを梅の収穫から利用者、職員で取り組んでいる。季節を感じてもらうため時季に応じたおやつ作りを一緒にしている。野菜の皮むき等も皆さんで楽しくやってもらっている。嗜好調査も実施し、出来るだけ利用者の希望を取り入れられるようにしている。	昼・夕食は法人系列事業所から届いた料理に職員が作るご飯と汁物を添え提供し、年に一度の嗜好調査等で好みを反映している。事業所の畑で植え付け、収穫した野菜が食卓に上ったり、利用者は梅干し・干し柿等のおやつ作りを共に楽しみ、下ごしらえ等、役割に応じて協力している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量・水分摂取量をすべて記録し、必要な栄養や水分が摂取できるよう支援している。水分や食事が摂取し難いときは、その人が好まれるものなどで、できるだけ摂取できるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの声掛けをし、自力で出来ない方は介助し口腔内の清潔を保っている。義歯は、毎晩ポリドント洗浄を実施している。義歯入れ・歯ブラシ・コップは定期的に消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄状況を記録し、パターンを把握している。排泄の訴えが難しいときでも、定時にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	排泄記録表で排泄パターンを把握し、トイレ誘導を基本としている。可動式手すりの設置や退院時の紙おむつから紙パンツへの移行例等、状態像に合わせた自立支援を行っている。夜間排泄時の転倒防止の為、赤外線離床センサーを設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表で申し送りをし、看護師の判断と医師の指示で対応している。便秘の予防を意識し、水分調節や適度な運動を実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	浴室の狭さもあり、身体状況に応じては決して十分な環境ではないが、2人体制で安全に留意し入浴を支援している。ひとり一人の、その時々状況に合わせて、時間を変えたり声掛けを工夫するなど、その時の個々の状況に応じた対応をしている。	週2回の午前浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、好みの湯温や時間等、柔軟に対応しており、時にシャワー浴や入浴しない利用者には足浴対応もある。又、お風呂は隣接事業所と共用しており、イスに座ったまま浸かれるリフト浴や冬至に柚子湯等、寛げる工夫をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	それぞれの居室でゆっくり休ん でいたり、食堂ではソファを置 きゆったりとした空間作りをし ている。質の良い睡眠がとれる よう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	お薬情報を全職員が周知して おり、特変あれば看護師よりか かりつけ医に連絡し薬の変更 となる。変更・追加などあれば 申し送りや朝礼で報告・伝達 する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。	ひとり一人がグループの中で 自分が得意なことを活かし役 割が持てるよう支援している。 ひとり一人が、どんなことが 気分転換になるかを把握し実 践を支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支 援している。	コロナ感染予防対策のため 地域の行事への参加や、毎月 予定してるドライブ外出は中 止している。外出が減っている 分、施設内で楽しめことを 企画し提供している。	現在はコロナ禍により散歩・ 季節のドライブ以外は自粛中 だが、天候が良ければ庭での 茶会や桜・コスモス・紅葉見 物等への少人数ドライブに出 かけ普段は行けないような場 所で「非日常」を楽しんでい る。いつもは閉じこもり生活 で表情の変わらない利用者 から笑顔が見られたことも ある。	
50		○お金の所持や使うことの 支援 職員は、本人がお金を持つこ との大切さを理解しており、 一人ひとりの希望や力に応じ て、お金を所持したり使える ように支援している。	本人がお金を持っていたいと 希望される方は、家族とも 話し合い、本人が所持し必要 な時は使えるよう支援してい る。管理されない方は、家 族又は事業所で管理させて いただいている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が家族と直接電話で話をしたり、手紙を書くことを支援している。希望があれば携帯電話の所持もできるよう支援する。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な環境作りに努め、利用者にとって居心地の良い空間で過ごすことができるよう工夫している。不快や混乱を招くような刺激が無いよう光や音や温度にも注意している。季節感を感じれるような飾り付けも行っている。	民家を移築した設えで利用者にとって古里に帰ったような懐かしい空間としている。菜園の花・野菜や正月・クリスマス等、季節行事の飾り付けや利用者で作った壁掛け作品等で季節が感じられるよう配慮している。リビングの天窓から明るい光が差し込むよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを増やしたこともあり好みのところで談笑されている。会話を楽しまれたり、音楽を聴かれたり、テレビを見られたり自分で好きな居場所を選ばれる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時お気に入りの家具などをと話させて頂くが、最近あまり持ち込まれていない。そこにあるので良いですから使わせてくださいと言われる。入所前、自宅で使われていた馴染みの物など持ってこられている。その人が居心地よく過ごせるような空間作りを工夫している。	居室にはベッド・タンス等が備え付けられ、鏡台等使い慣れた物や家族から送られた写真や誕生祝い等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。家族や担当職員の情報をもとに住環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりなどで安全な環境作りや、目印をつけることで、できる限り自立して生活が送れる工夫をしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームみら屋

作成日 令和4年11月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍の影響もあり、地域との交流は限られている。地域の行事への参加や、学校行事への参加には至っていない。	利用者と共に、地域との交流機会を積極的につくる。コロナ禍でも工夫して、新たな交流の機会をつくっていききたい。	①事業所の日頃の様子や取り組みを、地域へ発信していく。 ②感染対策し、地域行事へ利用者と参加する。 ③コロナ感染状況を見ながらではあるが、みら屋へ地域の方が気軽に立ち寄れるような行事（サロン等）を年2回程度開催する。	2年
2	10	利用者や家族の意見を日々の業務へ活かしているが、聞かれる意見自体が少なくなっている。利用者・家族は、伝える機会が少なくなり、言い難さがあるのではないか。	利用者・家族の方と活発に意見交換を行い、それらの意見を運営に反映させていけるようになる。	①みらみら通信発行の継続 ②3ヶ月に1回程度、利用者家族へ担当職員より手紙を書き、日頃の様子等を伝える。 ③いつも意見が聞ける体制を心がけ業務する。	1年
3	13	毎月の内部での現任者研修を実施し、職員の向上に努めているが不十分な部分がある。	職員一人一人が自分の力量に合わせて技術・知識の向上を目指し、事業所全体のレベルを向上させる。	①資格取得を個人目標に掲げる。 ②外部研修へ積極的に参加する。	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。